平成 20 年 11 月 10 日

各　位

会 社 名　　神 田 通 信 機 株 式 会 社
代表者名　　代表取締役社長　松 丸 美 佐 保
（ＪＡＳＤＡＱ・コード番号：１９９２）
問合せ先
役職･氏名　　常務取締役管理本部長 長澤　順一
電話番号　　（０３）３２５２－７７３１

平成 21 年３月期第２四半期累計期間（非連結）業績予想との差異及び通期（非連結）業績予想の修正並びに期末配当予想の修正に関するお知らせ

平成 20 年８月 11 日付「平成 21 年３月期第１四半期決算短信（非連結）」にて発表いたしました、平成 21 年３月期（平成 20 年４月１日～平成 21 年３月 31 日）の第２四半期累計期間及び通期業績予想並びに期末配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

１．平成 21 年３月期（非連結）業績予想の修正等

（１）第２四半期累計期間業績予想数値との差異（平成 20 年４月１日～平成 20 年９月 30 日）

（単位：百万円）

	売　上　高	営 業 利 益	経 常 利 益	四半期純利益	１株当たり四半期純利益
前 回 予 想　（A）	2,530	△106	△98	△94	△11 円 15 銭
今 回 修 正　（B）	2,092	△188	△178	△166	△19 円 55 銭
増 減 額　（B－A）	△438	△82	△80	△72	－
増　　減　　率	△17.3%	－	－	－	－
（ご参考）前第２四半期累計期間実績（平成 20 年３月期）	2,421	△18	△5	35	4 円 10 銭

（２）通期業績予想数値の修正（平成 20 年４月１日～平成 21 年３月 31 日）

（単位：百万円）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前 回 予 想　（A）	5,464	39	51	47	5 円 62 銭
今 回 修 正　（B）	4,928	△76	△63	△59	△6 円 96 銭
増 減 額　（B－A）	△536	△115	△114	△106	－
増　　減　　率	△9.8%	－	－	－	－
（ご参考）前期実績（平成 20 年３月期）	5,205	12	32	64	7 円 55 銭

２．第２四半期累計期間業績予想及び通期業績予想修正の理由

当第２四半期累計期間における売上高は、景気後退局面のなか、企業の業績悪化に伴う設備投資意欲の減退等の影響もあり、受注・売上案件の下期へのずれ込み２億 44 百万円や来期以降への計画の延期等により、前回予想比４億 38 百万円減の 20 億 92 百万円となりました。事業部門別には、建設事業部門では、大手・中堅企業のＩＰネットワーク関連設備工事等が計画を下回って推移したことにより、売上高は 15 億 95 百万円（計画 19 億 55 百万円）となりました。また、情報システム事業部門も、独立行政法人を中心とした公会計システムや社会福祉システム等が計画を下回って推移したため、売上高は４億 70 百万円（計画５億 48 百万円）となりました。不動産賃貸事業部門の売上高は 27 百万円と計画どおりに推移いたしました。

利益面では、売上高が受注・売上案件の下期へのずれ込みや来期以降への計画の延期等により 20 億 92 百万円と計画を下回って推移（計画 25 億 30 百万円）したことにより、営業損失は１億 88 百万円、経常損失は１億 78 百万円となりました。四半期純損失につきましては、適格退職年金制度を確定拠出年金制度に移行したことによる確定拠出年金移行益 13 百万円を特別利益に計上したこと等により、１億 66 百万円となりました。

通期の業績予想につきましては、上記の売上高の減少要因はあったものの、下期へずれ込んだ受注・売上案件の確保を含めて受注・売上増を図り、売上高は 49 億 28 百万円（前回予想比５億 36 百万円減）を予想しております。

また、損益につきましては、賞与やその他経費の削減策による販管費や原価の削減を実施し、営業損失 76 百万円、経常損失 63 百万円、当期純損失 59 百万円を予想しております。

※上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。
実際の業績は、今後、様々な要因によって予想値と異なる結果となる可能性があります。

３．期末配当予想

（１）修正の内容

	１株当たり配当金	
基準日	期　末	年　間
前回発表予想（Ａ） （平成 20 年８月 11 日発表）	円 銭 3.00	円 銭 3.00
今 回 修 正（Ｂ）	0.00	0.00
増 減 額（Ｂ－Ａ）	△3.00	△3.00
前期実績 （平成 20 年３月期実績）	3.00	3.00

（２）修正の理由

当社は、株主の皆様への利益還元は企業の基本的責務であり、安定的な配当継続を重視しておりますが、同時に、経済環境の変化に備えた財務体質の強化並びに将来の事業展開のための内部留保の充実にも十分留意する必要があると考えております。

しかしながら、通期の業績予想は当期純損失 59 百万円の計上となる見込みのため、誠に遺憾ながら期末配当予想につきましては無配に修正させていただきます。

以　上